



# 関西支部報

<http://www.jackansai.com>

## 北京墓参

重廣恒夫

4月24日(木)から3日間、久しぶりに北京を訪れました。1980年のチョモランマ北壁登山以降、87年の日・中・ネ三国友好チョモランマ交差縦走打ち合わせ・偵察飛行、88年のチョモランマ交差縦走、90年のナムチャバルワ峰偵察、91年の第1次ナムチャバルワ峰、92年の第2次ナムチャバルワ峰、95年のマカルー東稜と中国登山協会の人達にお世話になってきました。中国を代表する登山指導者で、80年のチョモランマ登山以降色々な日本の登山隊がお世話になった元主席の史占春さんが昨年(2013)1月に亡くなられた。その他多くの老朋友も他界し、最も親しかった張江援さんが登山協会を定年で退くこともあって、79年以降交流のあった斎藤惇生さん、平井一正さん、神崎忠男さん、橋本清さん、伊丹紹泰さん(元JAC会員)、森本志天さん(88年通訳)と共に「墓参り」のための訪中となった次第です。

中国における高峰登山の始まりは、55年ソ連労働組合中央理事会の招きで許競、師秀、楊徳源、周正(通訳兼任)の4名を、スターリンの故郷グルジアの登山コーチ学校へ派遣したところからです。56年ムズターグ・アタ峰(7546m)の中ソ合同登山がおこなわれ、中国側は史占春、

胡本銘、許競、師秀、劉連満、劉大義、国徳存、陳栄昌、陳徳禹、翁慶章、彭淑力、彭仲穆の12人が登頂に成功しました。58年、中ソ合同登山隊はレーニン峰(7134m)に胡本銘、王富州、楊永忠、石亮、王鳳桐、陳山、屈銀華、穆炳鎮が登頂しました。60年には、国家的事業として世界最高峰珠穆朗馬(チョモランマ)への登山がおこなわれ、国家体育運動委員会代表の韓復東を登山隊総指揮、史占春隊長兼党委員会書記の統率力によって、王富州、屈銀華、貢布の3人が北面から頂に立ちました。そして64年には地球上に残る最後の8000m峰シシヤパンマ(8012m)への挑戦がおこなわれ、許競(隊長)、張俊岩(副隊長)、王富州(副政治委員)、鄔宗岳、陳三、ミナザーシ、ドージ、ユントン、ソーナドージ、成天亮が頂上に立ち、王富州はチョモランマに続いて8000m峰2座の登頂者となりました。

日本山岳会は79年に解禁なったチョモランマへの登山許可を取得し、斎藤さんを隊長とした偵察がおこなわれました。80年2月、私は本隊の隊員として冬の北京特有のどんよりした空港に降り立ちました。歓迎会の席で会ったのは史占春主席や許競さん、王鳳桐さん、屈銀華さ

### 夏季懇談会のご案内

恒例の夏季懇談会を下記の通り開催します。多数のご参加をお待ちいたします。

**日時** 8月27日(水)18時から  
**会場** ホテルグリーンプラザ大阪・アネックス  
 電話 06-6374-1536  
**講師** 横山宏太郎氏(岐阜支部・No.8626)  
**演題** 南極とヒマラヤで学んだこと

講演終了後、講師を囲み懇親会を行います。(会費5千円)  
 同封の葉書に切手を貼って、8月20日までに出席をお知らせください。

北京墓参	重廣恒夫	1
平成26年度関西支部総会報告	薦田佳一	3
関西支部と私	大島康弘	4
本山寺山の森林づくりへの協力を	桑田 結	5
日本山岳会関西支部設立80周年記念	ヒマラヤ登山隊参加者募集	5
私のおとつておきの山行	内田嘉弘	6
支部山行報告	7	7
「本山寺山森林づくりの会」作業報告	秦 康夫	15
山の音楽(2)世界編	水谷 透	15
自己紹介	野村哲夫	17
平成26年度日本山岳会関西支部総会	会務報告	17
第6回委員会議事録	第7回委員会議事録	21
受贈一覧	支部山行計画	22
支部山行計画	自然保護行事	22
自然保護行事	編集後記	23

### 目次



写真提供：重廣恒夫

人など前記した中国登山の黎明期に活躍した面々で、中国登山協会幹部の人達でした。特にベースキャンプに同行した王富州さんと張俊岩さんとは親しい仲になりました。その後中国・チベットでの登山では多くの人達と知り合い、たくさんの杯を傾けてきました。斎藤さんや平井さんにとっても今回の訪中はこれまでの中国登山協会との交流の総決算となるものでした。24日夕刻に開催された同協会主催の歓迎宴には、88年三国友好登山隊のチョモランマ登頂者であった李致新主席、現代中国で最も有名な登山家で七大陸最高峰登頂や北京オリンピック時に聖火をチョモランマ頂上に到達させた登山隊の隊長を務めた王勇峰副主席など幹部15人が出席しました。会席には前中国国家体育总局副局长でもあった80年チョモランマ隊通訳で元北京オリンピック招致委員、現IOC副会長の于再清さんも顔を見せてくれました。オリンピックの開催地が北京か大阪かと取沙汰されていた時期に北京を訪問した際「オリンピックは北京にきます」と語った彼の顔を今でも思い出します。

翌日は、同協会交流部長の李豪傑さん(88年通訳)の案内で、これまでお世話になった幹部の人達のお墓参りをしました。共産党員であった史占春さんと88年チョモランマ交差縦走中国隊登攀隊長の尚子平さん(登山実施前

病に倒れ、その後4月21日北京市内の病院で死去)の墓は、北京市郊外の八宝山南麓にある「北京八宝山革命公墓」の中でした。墓参りといっても墓前では無く、事前に連絡して安置所から取り出した骨壺に用意した供花を横に置き、菊の花を献花して行いました。史占春さんの式には息子の史岩さんが、尚子平さんの式には長女が同行してくれました。史占春さんとは80年以來の付き合いでしたが、88年の登山準備から縦走終了後まで丁々発止のやり取りを思い出しました。尚さんは、88年ベースキャンプに向かう前に斎藤さんと北京の同仁病院に見舞い、隊員に配布するナイフを手に握らせた時に見せた涙が今でも脳裏に焼きついています。革命公墓には57年に史占春隊長でおこなったミニャ・コンカ(7556m)登頂後の事故で命を絶った師秀、国徳存、彭仲穆を、中国登山史上初の登山事業に身を捧げた勇士として「征服 貢嘎山遭難烈士記念碑」が建てられていました。

その後、さらに西に移動して、「萬佛園」にある86年日中合同ナムナニ峰登山隊中国側登山隊長、また88年中国隊登山隊長で前同協会主席であった曾曙生さん、おなじく「北京市温泉墓園」にある前同協会副主席許競さんの墓参りをしました。曾さんの墓石の近くには「日中合同学術登山隊」の梅里雪山登頂を目前に91年1月4日に発生した雪崩遭難の記念碑「梅里英魂」が建立されました。たかが「墓参り」ですが、広い中国のことたっぷり1日かかりました。夜は日本側の答礼を宿泊した天壇飯店の近くの店を借り切って宴会をおこないました。李友林(80年通訳)、王鳳桐(88年秘書長、91・92年副総隊長)、于良璞(88年)、張江援(92年マネージャー、95年連絡官)・陳英昌(80年)、陳尚仁(88年)、王勇峰(同協会副主席)、羅申(95年)、陳健軍(90年・91年副隊長)など22人の老朋友が集まって、杯を重ねながら昔話に花が咲きました。

政治的な背景もあって海外からの中国登山が皆無になった現在、中国登山協会は岩登りを中心としたアウトドア全般にわたる事業を全土で展開し、年間予算は3億円を超えとか。半分は国からの補助で賄っているようですが、協会員200名を養うのは至難の技だと李致新主席は語っていました。私たちもそのバイタリティーを見習うべきだと実感しました。

## 「蔵書を読む会」のご案内

日時 8月27日(水) 午後1時～午後5時(予定)

会場 支部ルーム

※ 当日18時より近辺の「ホテルグリーンプラザ大阪 アネックス」にて夏季懇談会が開催されますので、お気軽にお寄りください。〔図書委員会〕

## 平成26年度 関西支部総会報告

薦田 佳一

平成26年4月23日ホテルグリーンプラザ大阪・アネックス5階にて平成26年度日本山岳会関西支部総会が開催されました。

初めに重廣支部長の挨拶があり、「総会次第」に従って金井副支部長により議事進行がなされました。

平成25年度の活動は、主軸である関西支部設立80周年に向けた記念事業について「日本山岳会関西支部八十年史」の発刊に向け編集が進められ、「関西支部県境縦走」第一部(瀬戸内海から日本海へ)の完了、「80周年記念海外山行・未踏峰ナンガ・マリI峰」の計画案をまとめました。「4000山グランプリ」、「ゆるやか山行」の他、公益目的の「登山教室」、「本山寺山森林づくり」等が実施されました。また故阿部前支部長から図書350冊の寄贈を受けたことの報告および会計報告が行われました。

続いて平成26年度活動方針・一般会計予算案について説明があり、その主な活動方針として①「日本山岳会関西支部八十年史」の内容充実に努めることや、「近畿分水嶺・続近畿分水嶺路査」の報告を冊子、CDにまとめて発行すること。②引き続き「関西支部県境縦走」は日本海側から太平洋への約600kmの完全縦走を目指し活動の輪を広げ、会員勧誘の場にもしたいこと。③「80周年記念海外山行」の概要としてネパールヒマラヤ北東部の未踏峰、チベットとの国境上にあるナンガ・マリI峰(6211m)への説明がありました。

総務委員会から組織の充実を目指し、会員の親睦や情報交換の方法として夏期懇談会や新年会等の実施について説明があり、すべての議案が全員一致で承認されました。

その後、席を宴会場に移して、安井康夫会員(上高地山岳研究所運営委員)の乾杯の音頭により懇親会が始まり、和やかなひと時を過ごしました。なお宴会場はシックな飾りのある落ち着いた部屋で料理はおいしく、皆さん話がはずみ、21時をもって金井副支部長のお礼のあいさつのもとお開きとなりました。

### 欠席者からのお便り

欠席にて失礼します。いつも支部報興味深く拝読させていただいております。No.154、特に雪の山小屋の大合唱。



かなり昔R.S.アルプス交響曲、ドキュメンタリ映画が何か、「象」と少年達の山越えのシーンにこの曲が使われていたように。この曲のテープを苦労して入手して以来、聞いてました。古くなったテープを今、ポリウム大にして雪の大合唱と共に思い起こしています。山の音楽、次が楽しみです。  
佐野加代子

いつも欠席しまして申しわけございません。 内藤正司

ちょうど海外旅行に行っていますので欠席します。

大津陸郎

申しわけございません。仕事関係の総会と重複している為、参加できません。よろしくお取り計らいください。

高木 稔

体調不良により欠席させていただきます。盛会をお祈り申し上げます。

大西 保

一昨年、昨年、今年と三年連続、大病で入院しましたがもう大丈夫です。

遠山誠之介

何時も欠席で申し訳ありません。関西支部の皆さんにいずれお会いできるのを楽しみにしております。

大川哲次

申し訳ありません。業界の総会で東京に行かねばならず欠席させていただきます。

城 隆嗣

何時もご連絡ありがとうございます。是非一度出席したいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

羽田英彦

この数年、韓国白頭大幹の山歩きをしています。たいて





## 私にとっておきの山行 プリアン・サール初登頂 —1975年—

内田嘉弘

私の最初のヒマラヤ山行は1974年のハラムク(5142m)であったが、悪天が続き登れず失敗に終わった。次回ヒマラヤに来る時は必ず登るのだと私は心に誓った。そして、次の年(1975年)カラコルムの未踏峰プリアン・サール(6293m)に向かった。この山は、1956年に京都大学・バンジャブ大学合同登山隊がバドスワード氷河から試登している(本多勝一著『憧憬のヒマラヤ』)。私達もこのバドスワード氷河から登り、BCから上ではシェルパも高所ポーターも使わずに、隊員だけでルート工作、荷揚げをする計画だった。

7月19日ジープ4台でギルギットを出発しイミットへ、草木が見られないハゲ山の中をジープは砂煙を上げてギルギット河沿いに進む。ガラムッシュ(6244m)に向かうオーストリア隊が私達の後に続いていた。チャトルカンの手前で橋が洪水で流されていたのでジープは渡れず、ここからキャラバンが始まった。途中でポーターの賃上げストライキ、バドスワード氷河を渡る手前でもストライキ等があったが、22日BC(3700m)に到着した。

休む間もなく23日より登山活動を開始。まずはルートの選定のため、2隊に分かれて偵察。上部プラトーへ出るのが課題であった。バドスワード氷河を辿って左岸の岩稜上を仮C1(4000m)として荷揚げの中継点とした。更に氷河の左岸沿いにルートを延ばしてC1(4700m)を建設する。ここからの上部は氷河の押し出しの直下を横

断シクレバスを避けながらルートを延ばし、氷壁に固定ロープを張り上部に抜けた雪面の棚(5000m)を仮C2として、プラトーへのルートを探った。仮C2からはコー・イ・チャイアンタール(6416m)やオーストリア隊が挑んでいるガラムッシュが望めた。プリアン・サールは、BC、C1、仮C2からも望めず、山頂へのルートが目で見えないので不安であった。BC建設から13日目の8月4日にプラトーに抜け出た時、初めてプリアン・サールの全貌を望むことが出来た。出発前に見せてもらっていた写真とは山姿が異なっているのに気付いた。この場所から観察すると写真の山はプリアン・サールではなく、右隣にあるバドスワード山(5769m)であった。8月5日、プラトーの真ん中にC2(5400m)を建設した。ここから眺めるプリアン・サールは双耳峰で、右奥のピークが本峰だった。ルートは山頂から北西に延びる雪稜を辿るのが正解だと判断した。プリアン・サールを目の前にして、私は自分達の力を出し切れれば登れる山だと確信した。

8月6日、プラトーを横断して北西稜に取り付き、氷壁にルートを開き登り詰めて稜線に抜け出た地点をC3(5600m)とし、ここから山頂にアタックすることにした。登攀隊長であった私は最初のアタック・メンバーとして自ら行くことを考えたが、登攀能力、馬力のある強力若手メンバー4名にアタックを任せて、まずこの山を落すことにした。

8月7日、若手4名は5時20分にC3を出発。好天に恵まれ絶好のアタック日和。稜線は北側に雪庇が張り出していたから雪庇を踏み抜かないように慎重に雪稜を辿る。頂上直下のクレバス帯を慎重に突破し、右にニセ・ピークを見て、最後のコブを登ると20坪ほどの台地に出た。その先に小山のようなピークが見え、そこが頂であった。8日も好天に恵まれ、私を含む第二次アタック隊3名もアタックに成功した。山頂に立った時、足は震えた。まるで夢の中、天国にいるような気分で、BCにいる隊長との交信では、ただ「ありがとうございます…」しか言えず、後は言葉にならなかった。頂上からはコズ・サール(6677m)、6628峰、カンピレ・ディオール(7168m)、クック・サール(6943m)、バツラ(7795m)、ハッチンダール・チッシュ(7163m)、ディラン(7258m)、ラカポシ(7788m)が望め、幸せなひと時を過ぎた。そして、何より嬉しかったことは、今回予定していた登攀メンバー7名全員が登頂したことだった。



プリアン・サール頂上にて 写真提供：内田嘉弘

## 支部山行報告

### 支部山行12-73・74 4000山グランプリ36 局ヶ岳～栗ノ木岳～修験業山～三峰山

3月9日(土)曇・10日(日)曇後雨

初日は手前の新道登山口より急な登りがつづく植林帯を抜けて小峠へ。岩場混じりとなった急登をやり過すと局ヶ岳頂上に出た。お地藏さんが鎮座していた庄司峠北側で取水してから庄司山に上がり、狭い稜線でテントを設営。2日目は夜明け前に出発。どうにか保っていた天気も黒岩山で休憩中に雨が降りだした。三峰山の登りにかかると残雪も出てきた。頂上で急いで写真を撮り、不動滝に下った頃には雨も上がっていた。 [野口恒雄]

#### 【コースタイム】

9日 新道登山口10:20—11:25旧小峠—11:57局ヶ岳—12:57仁垣峠分岐—15:42庄司峠16:20—17:21テントサイト  
10日 庄司ノ高05:29—05:55黒石山—07:04若宮峠—07:56栗ノ木岳—09:19修験業山—11:04黒岩山—13:29三峰山—14:59不動滝登山口

#### 【参加者】

重廣恒夫 野口恒雄 秋枝秀實 橋本圭之輔 黒田記代  
(会友)上村規子 (会員外)松仲史朗 計7名

### 支部山行13-12 4000山グランプリ 東三方ヶ森(1233m)・明神ヶ森(1217m)

7月6日(土)晴

阿歌古溪谷沿いの荒れた林道を走り、車を置く。登山口から沢沿いを歩き、竹林を経て杉林の中、高度を稼ぎ稜線分岐に出て北に進みいくつかの岩場のピークを経て東方ヶ森頂上に着く。下山は稜線を1087.3mまで南下、そこから南西に進み西に延びている尾根筋を下降し車に戻った。 [重廣恒夫]

7月7日(日)晴

黒滝神社からしばらく林道を歩き登山口に到る。登山道を忠実に辿るが、トラバース道の手前から浅いルンゼを直登し、稜線に出て東へ進み頂上に立った。頂上から北東に延びた稜線を忠実に辿った後、白潰(しろつえ)から急な山腹を林道に下り黒滝神社に戻った。 [重廣恒夫]

#### 【コースタイム】

6日 林道駐車地07:42—10:03稜線分岐10:10—10:47東三方ヶ森11:20—12:58P 1087.313:00—14:30駐車地

7日 黒滝神社08:06—09:31明神ヶ森10:00—11:31白潰11:50—12:45林道13:10—14:25黒滝神社

#### 【参加者】

村田かおり 橋本圭之輔 重廣恒夫 (四国支部)清家一明 今井順一 仁田祐二 長瀬美代子 家段勝好 岩井賢助  
関西支部3名 四国支部6名 計9名

### 支部山行13-17 4000山グランプリ 梅海新道

8月11日(日)～14日(水)

毎日好天に恵まれたが重荷と猛暑に悩まされた。11日3人の登山者に先行されたが、それ以降は毎日下山する登山者に会うだけであった。サワガニ山まで水は乏しかったが、それ以降はいたるところに水場があり、不案内から2日目に黒岩平で泊まったのは失敗であった。

[重廣恒夫]

#### 【コースタイム】

11日 親不知海岸05:12—09:19尻高山09:30—12:08シキ割の水場12:40—14:43白鳥山14:50—17:49菊石山17:50—18:13黄蓮乗越  
12日 黄蓮乗越04:30—07:48梅海山荘07:50—11:00サワガニ山11:20—13:55黒岩山14:00—15:24黒岩平水場  
13日 黒岩平水場04:23—07:35長梅山07:45—10:26朝日岳10:30—17:03雪倉岳17:20—17:48雪倉岳避難小屋  
14日 避難小屋04:08—05:08鉢ヶ岳05:20—6:06蓮華温泉分岐06:10—10:50蓮華温泉ロッジ

#### 【参加者】

重廣恒夫

### 支部山行13-21 4000山グランプリ 陣ヶ森(1013m)・工石山(1176m)・稲叢山(1506m)

8月31日(土)曇後雨

早朝に徳島を車で出発し、林道を辿る。駐車場所から陣ヶ森の頂上まではすぐであった。下山後、工石山の登山口に向かう。工石山へは杖塚から北回りで登り「北の頂」を経て山頂に到る。一等三角点の頂で展望台も設けられている。下山は南回りのコースを辿り、シャクナゲの尾根から賽ノ河原を経て工石山青少年の家に向かった。 [重廣恒夫]

**9月1日(日)雨**

工石青少の家を車で出発し、稲村ダムを経て稲村トンネル手前の駐車場で昨日は沢登りだったメンバーと合流。雨の中を稲叢山に向かう。トンネル右手から登山道に入り尾根を巻いて西門山に続く尾根の鞍部に出る。ここから西進し、痩せ尾根を辿ると頂上であった。山頂は畳4枚ほどの1枚岩の上で祠にはお賽銭が積まれている。昼食後往路を引き返し、鞍部を経て東進し、西門山の頂上を踏んだ後、駐車場に戻った。 [重廣恒夫]

**【コースタイム】**

8月31日 陣ヶ森上部登山口07:14—07:39陣ヶ森07:50—08:02陣ヶ森上部登山口(自動車)工石山登山口09:05—10:28北の頂10:30—10:35工石山10:45—12:09工石山登山口

9月1日 稲叢山登山口09:49—10:00西門山分岐10:00—10:32稲村湖コース分岐10:35—11:00稲叢山11:30—13:07西門山13:20—14:29稲叢山登山口

**【参加者】**

松村文子 重廣恒夫 (四国支部)今井順一 (9/1のみ 四国支部)尾野益大 小林京子 家段勝好 渡辺潔 越智晶子 長瀬美代子 岩井賢助

関西支部2名 四国支部8名(内7名9/1のみ)

8月31日 3名 9月1日 10名 計13名

**支部山行13-26 4000山グランプリ  
屏風山(1354m)・蠅帽子嶺(1037m)**

10月26日(土)・27日(日)実施予定は、台風27号・28号の影響により中止しました。

**支部山行13-31 4000山グランプリ  
鈴ヶ森(1054m)・蟠蛇森(769m)**

**11月30日(土)晴**

高山側登山口から荒れた林道を辿り、途中から左手の尾根を登る。かなりの急登で鹿避けのネットが邪魔であるが、ほどなく道のついた主稜線に出て西進する。鈴ヶ森の頂上からは雪のついた南西の尾根を進み、三町界から南にシャクナゲの群生した尾根を下り三等三角点「杖立」を経由して杖立登山口に下った。 [重廣恒夫]

**12月1日(日)晴**

地元の蟠蛇森オリエンテーリングの日におつかり、予定の桑田山神社駐車場まで行けず手前に駐車して出発する。桑田山神社から民家とミカン畑の間につけられた道

を辿る。目印の四国電力第4鉄塔を過ぎると車道と山道を交互に進むようになる。石灰岩の露岩を直登し、車道を進んで西に入ると蟠蛇森の頂上である。頂上は公園となっており展望台からは須崎湾の真下に見下ろして東西に展望が開けている。 [重廣恒夫]

**【コースタイム】**

11月30日 高山側登山口07:40—09:13P85609:20—09:56P96110:00—10:29鈴ヶ森11:00—11:26P100211:30—12:17三町界12:20—13:07シャクナゲ群生地13:20—13:45三角点14:00—15:36杖立登山口

12月1日 桑田山神社10:00—10:30第4鉄塔10:35—12:03蟠蛇森12:40—13:56駐車場

**【参加者】**

山内幸子 松村文子 村田かおり 黒岩敦子 重廣恒夫 (四国支部)尾野益大 小林京子 瀧由喜子 前田英昭 今井順一 明上邦彦 (11/30のみ 四国支部)仁田祐二 越智昌子 長瀬美代子 岩井賢助

関西支部5名 四国支部10名(内4名11/30のみ)

11月30日 15名 12月1日 11名 計26名

**支部山行13-35 4000山グランプリ  
安堵山(1184m)～冷水山(1262m)**

**1月11日(土)晴**

京阪神から遠い山である。紀伊田辺駅からタクシーで果無越入口まで入るが11時を回っている。和田ノ森まで一気に登り、昼食を摂る。ここからは快適な稜線歩きとなり順調に東進するがそれでも冬の陽が落ちるのが早くカヤノダンの手前の平にテントを張った。取水も難しいので雪を融かして炊事をする。 [重廣恒夫]

**1月12日(日)晴**

予定より一本早いバスに乗りたいたと、暗いうちに出発する。ミヨウガタワを越えて稜線上に「大谷源助の墓」のプレートを見たので墓を探すのが目的は果たせなかった。ここで30分のロスとなる。石地力山で一休みした後、一気に高度を下げ十津川温泉バスターミナルに辿りついた。 [重廣恒夫]

**【コースタイム】**

11日 果無越入口11:40—13:12和田ノ森13:20—14:32安堵山14:50—15:32黒尾山15:40—16:07冷水山16:10—16:36カヤノダン手前

12日 テントサイト04:53—05:23公門ノ崩05:30—06:33筑前タワ06:40—07:22ミヨウガタワ07:30—08:38ブナの平08:40—09:05石地力山09:15—09:49果無峠09:50—11:50十



津川温泉バスターミナル

**【参加者】**

松仲史朗 重廣恒夫

**支部山行13-36 近場でスキー  
ハチ高原**

1月14日(火)~16日(木)実施予定は、都合により中止しました。

**支部山行13-37 関西支部県境縦走13-1-2  
蒲生峠~△西山~ P523**

黒田記代

1月17日(金) 鳥取駅前のホテルに前泊

1月18日(土)雪

岩美駅から森田さん(山陰支部)の車で、前回の下山地である蒲生峠まで行く。踏み跡の無い雪の積もった林道をワカンで歩きマイクロウエーブのポイントまで舗装林道をラッセルで進む。

マイクロウエーブから先は林道を離れ稜線に上がり、県境尾根を忠実に△西山まで上がる。森田さんは△西山から蒲生峠に下山。出発時から雪がちらついていたが、△西山に上がった頃から本格的に雪が降りだし風も出て来た。悪天の中、ラッセルを交代しながら県境尾根を進む。時刻も15時を過ぎた頃、樹林帯の中の広々とした平坦地に出た。テントサイト予定地の手前であるが、ここP707を本日の宿泊地と決める。

1月19日(日)雪

昨日からの雪は夜中も降り続き、朝になってもやむ気配がない。予定どおりに進めそうにないので、途中下山を考え、出発は遅めの7時となった。雪の降りしきり中のテント撤収となる。今日もワカンラッセルのスタートで、ラッセルを交代しながらP523へ。10時着。ここを逃すと下山出来そうな所はないと判断する。

P523から下山開始。ルート取りが難しく、林道に降り立つまで時間が掛かってしまった。舗装林道に下りたとはいえ、積雪のため車は入れない。車の入れる所まで林道を延々と歩いた。長谷の岡森神社まで下ると道に雪はなくなり、森田さんに迎えに来て頂き、岩美駅まで送って頂いた。

今回、汐吹岬に降り立ち、瀬戸内海の真尾鼻から始まった兵庫県・岡山県、兵庫県・鳥取県の県境縦走終了となる予定であったが、悪天と予想外の積雪量によるラッ



ラッセルしながら進む 写真提供：重廣恒夫

セルで思うように歩を進める事が出来なかった。次回の完結を心に期して帰宅の途に着いた。

**【コースタイム】**

18日 蒲生峠07:38—09:39マイクロウエーブ—10:44△西山—16:09 P707

19日 テントサイト6:52—10:14 P523—13:42林道合流—16:44岡森神社

**【参加者】**

重廣恒夫 山内幸子 辻和雄 野村珠生 黒田記代 (会友)上村規子

サポート：森田富雄(山陰支部)

**支部山行13-38 4000山グランプリ  
烏帽子山(909.2m)~光ヶ峯(685.8m)**

2月8日(土)

当初予定は陰陽ノ滝から沢沿いの道を烏帽子山に登り、大雲取山への縦走であったが、2011年の台風12号で大きな被害を受けコースが様変わりしているため、計画を変更して青岸渡寺から入る。西ノ谷出合からコースを間違えて右手の尾根経由で二ノ滝に近づく。ここから三ノ滝までも違ったコース取りをしたようで山ノ神についた時はホッとす。沢沿いの道を進み最後崩落した斜面に登り林道へと出た。林道終点からは雪も多くなったのでアイゼンをつけて歩き、夕闇迫る烏帽子山に到着してテントを張った。

[重廣恒夫]

2月9日(日)

烏帽子山から南へ瓶子尾根を下り光ヶ峯に向かうが、細い稜線はコースがわかり難く途中で朝が明けるまで待機する。大杭峠を経て光ヶ峯に到着する。頂上からは妙法山、那智高原、大雲取越の山稜や、青岸渡寺などが一望できる。頂上からさらに南に下り市野々に降り立った。

[重廣恒夫]

## 【コースタイム】

8日 西ノ谷出合12:32—13:15二ノ滝13:40—14:43三ノ滝  
14:40—15:20山ノ神15:30—16:15林道合流点16:20—16:41  
烏帽子山入口16:50—17:47烏帽子山

9日 烏帽子山05:38—07:28東ノ谷分岐07:30—08:04大杭  
峠08:10—09:19光ヶ峯09:30—11:58市野々

## 【参加者】

村田かおり 松仲史朗 重廣恒夫

## 支部山行13-39

## レスキュー講座

雪上研修会のための事前学習会 支部ルームにて

2月18日(火) 18:30~20:00

ロープワークを中心に

## 【参加者】

山本一夫(講師) 辻和雄 魚津清和 久保和恵 青木昭  
計5名

## 支部山行13-40 ゆるやか山行【里山探訪】

歴史と文化を訪ねる10

## 高安山～信貴山

中島 隆

2月20日(木)晴一時曇

集合場所が私の地元「信貴山口駅」なので大変楽で、定刻には23名が集合し、旧信貴山道から黒谷公園へ、久保リーダーからコース説明と山内サブの準備体操指導。此処からの見晴らしは摂津連山から池田の五月山、宝塚、六甲摩耶須磨連山と。見通しの良い日は明石海峡大橋の橋脚が見え、淡路島までが見える。完成間近の阿倍野ハルカスの日本一の高さが目立つ。黒谷公園から二つ目のヘアピンカーブ角に登山口があり、ゆるやかに低い笹と灌木の間を登る。左手は見晴らしが効き、生駒山のテレビアンテナ群も見える。岩戸神社からの道と合流する分



信貴山頂で森澤さんの蘆薈を聞く 写真提供：中島 隆

岐では谷沿いの旧信貴山道は日当たりも悪く先日の積雪で滑りやすくなっているため、日当たりが好い尾根道をとる。傾斜はあるが雪も溶けて歩きやすく、近道でもある。稜線沿いは広い道が高安山駅前バス停まで続いている。手前の展望台に上がり、昼食休憩とする。風は少し冷たいが椅子の背凭れが風除けに、大阪方面の見晴らしが好い。

ケーブル駅前から高安山へは広い道となり、气象台レーダー辺りの日陰では未だ雪も残っていた。山頂への道に入るとすぐに狭い二等△・峰山(高安山)487.44mに到着。そこからは少し凍っていた急なところを降り、旧高安城址倉庫跡に寄り道してから信貴山山頂に着く。

信貴山空鉢護法堂からは二上山・岩橋山・葛城山・金剛山と四山が重なる風景であった。赤い鳥居の続く階段を下り、朝護孫子寺正門から旧旅館街を抜けて信貴山バス停前が出る。今は無き東信貴ケーブル軌道跡を下って近鉄生駒線信貴山下駅へ、此処で解散となった。

## 【コースタイム】

信貴山口駅09:50—10:11黒谷公園—10:21登山口—11:00尾根道分岐—11:27稜線分岐—11:40高安山駅前展望台(昼食)  
12:15—12:48高安山—13:04高安城倉庫跡—13:39信貴山—  
14:24朝護孫子寺—14:55旧ケーブル駅跡—15:10清和清陵  
高校前—15:27信貴山下駅

## 【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 新本政子 内田嘉弘 金井健二 小林貢 阪下幸一 戸島泰三郎 中島隆 野村哲夫 松波幹夫 水谷透 森澤義信(会友)岐部明弘 黒岩敦子 小林三喜男 中野峯子 横山規江(会員外) 新井幹子 秋月修次 井上直美 田中アキエ 計23名

## 支部山行13-41

## レスキュー講座

雪上研修会 びわ湖バレー山上駅周辺にて

3月15日(日) 10:00~15:10

歩行技術(つぼ足、ワカン、ピッケルとのコンビネーション)、ビーコンの使い方(実際の操作)、雪崩予知技術(弱層の見分け方としゃべるボンボンテスト)、埋没体験、幕営地の整地と防風壁の作り方、ビバークシェルター作成技術、ピッケル利用の滑落停止練習、アンカーの設置方法、雪上確保の方法

## 【参加者】

山本一夫(講師) 辻和雄 青木昭 山内幸子 計4名

支部山行13-42 関西支部県境縦走14  
日本海(汐吹・陸上岬)に到着

山内幸子

2月22日(土)晴

前夜の雨も上がり岩美駅からタクシーで長谷の岡森神社へ行くが、先の林道には雪がなくゲートが開いて先行車の轍があったので運よく入れたので林道歩きが1時間ほど短くなる。ワカンを着けて歩く。尾根に取りつく地点でアイゼンに付け替える。先月の苦労した新雪ラッセルはなく今回は雪が締まってアイゼンがよくきくので歩きやすい。支尾根から主稜線に上がり前回の離脱点に出る。ワカンに替えてキツツキが開けたばかりの穴やアカマツなどを見ながらP422、図根点のあるP356を順調に越える。雪が少なくなってくるが七坂尾への上りにかかると雪は多くピークで埋まった三角点を掘り出し記念撮影。今日の行動はここまでで雪を踏み固めてテント二張り設営。いい条件が重なり予定よりかなり先に進めた。夕日や日本海に浮かぶイカ釣り船、街の明かりを見ながら、風のない暖かい夜を過ごす。

2月23日(日)晴

明るくなってきた6時半にテント場を離れ、細い尾根を、アイゼンをつけて慎重に下る。雪がところどころ消え土が顔を出す道を泥んこになりながら歩き、アイゼンを外す。雪がなくなり灌木のヤブになるが、嫌だと思っているうちに地籍調査のために刈り払われて歩きやすくなる。2万5千図に出てない金属標の新図根点や新四等三角点が多く出てくる。居組の町やJR線の列車を見ながら三等三角点の大鷲へ。青い海が真下に見える展望台から国道の走る峠までひたすら海や道路を見ながら下る。サポートの森田さんの車が見え始め県境の峠に下り立つ。七坂八峠展望台からロープを着けて海岸まで下りようとしたがオーバーハングになっている岩場でこれ以上下るのは危険だということになり突端の海だけを覗きこんで引き返す。峠に戻り森田さん差し入れのシャンパンで乾杯する。

その後、東浜まで下りて瀬戸内海の水を流し、新しく日本海の水を汲む。瀬戸内海の本尾鼻から1年2か月かけて参加者みんな(サポート含め延べ400余名)でリレーして250km近くを運んできた水を思いを込めて流した。これから第二部になる京都との県境歩きのために新しく日本海の水を汲み新しいスタートに繋げた。

総距離約750kmにわたる大縦走の壮大なる計画の第一部が今日終了した。参加のみなさん、サポートしてくだ



汐吹(陸上)岬 写真提供:重廣恒夫

さった方々、応援してくださった方々ありがとうございました。お疲れ様でした。

【コースタイム】

22日 尾根取り付き点09:12—11:05県境復帰点—11:15 P 523—11:39 P 520—12:37 P 526—13:47 P 422—14:55図根点(P356)—16:55テント場(三等△七坂尾437.1m)

23日 テント場06:30—07:04 P 254—07:41新図根点—07:59青谷の上(新四等△)—08:32新図根点—08:39 P 265—08:55陸上トンネル上—09:15新図根点—09:39大鷲(三等△325.1m)—10:39新図根点(展望台)—11:22県境の峠—11:56七坂八峠展望台—12:41汐吹岬上—13:32駐車場—13:53放水・取水地

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代 野口恒雄  
サポート:森田富雄(山陰支部)

支部山行13-43 五支部合同スキー山行  
飯綱山

3月1日(土)・2日(日)曇 頂上・霧

前日の降雪のため急な登りでスキーアイゼンがききにくくキックターンに苦労しながら頂上へ到着する。残念ながら霧のために展望がきかないが多くの人でにぎわっ

ていた。下りは西尾根を滑り中社リフトで戸隠スキー場に戻りスキー場を滑降り宿舎にて解散。山スキー組は全体で27名。 [安井康夫]

### 【コースタイム】

1日 懇親会  
2日 最終リフト09:05—09:10滑降開始—11:30飯綱山12:15—13:40萱ノ宮—14:10林道(中社スキー場経由)15:30戸隠スキー場解散

### 【参加者】

(関西支部) 安井康夫 井上達男 新本政子 久保和恵 河野直子 阪下幸一 佐野佳代子 辻和雄 廣田猛夫 宗実二郎 山内幸子 (会員外)廣田伸治 計12名

### 支部山行13-44 4000山グランプリ 法恩寺山(1357m)～大師山(550m)

#### 3月8日(土)曇

白山中宮から越前禪定道に取り付く。雪は重く先が思いやられる。三頭山を過ぎた頃から空模様が怪しくなったので、法恩寺山から先に進み明日経ヶ岳を踏んで保月山を経て自然保護センターに下る予定を変更する。中ノ平避難小屋に荷物を置き、法恩寺山を往復する。頂上に到着する頃には天気は回復して早すぎた判断が悔やまれる。スキーヤーの集う頂上から昨年5月に縦走した取立山から赤兎山の稜線が、北から東へ延びている。南東には予定していた経ヶ岳が大きく見える。下山した避難小屋では早々と宴会が始まった。夕方、神戸の六摩会のメンバーが到着して賑やかになった。 [重廣恒夫]

#### 3月9日(日)晴

避難小屋から三頭山までは往路を辿り、頂上から北西に大師山に続く尾根に入る。トレースも無くラッセルトレーニングに好適である。高度が下がってところどころ地肌も出てきたが、大師山の頂上まではそのまま歩く。三角点の傍らに延宝8(1680)年に寄進された六角灯籠が鎮座している。頂上からは昨日登った法恩寺などの展望が素晴らしい。特に北に見える越前甲は登高意欲を掻きたてられる。下山は北にとり、泰澄大師を祀る大師堂を経て越前大仏殿に下った。 [重廣恒夫]

### 【コースタイム】

8日 白山神社入口08:24—09:25剣之宮09:30—10:53三頭山11:00—13:10中ノ平避難小屋13:30—14:42法恩寺山15:00—15:36避難小屋  
9日 避難小屋05:36—07:29三頭山分岐07:35—10:39大師山11:00—11:42大師山登山口

### 【参加者】

松仲史朗 重廣恒夫 (会友)上村規子

### 支部山行13-45 ゆるやか山行【里山探訪】 歴史と文化を訪ねる 11

3月20日(木)実施予定の「交野山から国見山」は雨天により中止しました。

### 支部山行13-46 関西支部県境縦走15 日本海～三原峠

野村珠生

#### 3月21日(祝)曇・雪

城崎駅に集合した15人は迎えに来たマイクロバスで田結(たい)の民宿に向かう。日本海から太平洋熊野灘への約600km、県境縦走第二弾のスタートである。

城崎温泉、田結地区では後継者不足等により放棄された田を利用しコウノトリの野生復帰プロジェクトを推進している。今にもコウノトリが飛来してきそうな放棄田を右に見ながら県境縦走始点へと先ずは北西尾根を目指す。コルに登りつめたところで大粒の霰が降り出した。日本海に突き出た半島の気象は猫の目の様にクルクル変わり、陽が差したと思ったら霰に見舞われ足下はあっという間にドロドロ。靴どころかお尻まで泥んこになる始末。梅の咲く3月とはいえ手の先はまだ冷たい。P159からは日本海へ滑りながら降りる。風が強く波が飛沫を上げ中、瀬戸内海の水を注ぎ新たに日本海の水を汲んだ。ここからが本当の県境縦走のスタートだ。来た道に戻り蒲井の分岐には15時前に着いた。もうワンピッチ前進出来そうな気もするがみんなの頭の中は今晚の「蟹づくし」で一杯。決断は早く民宿「えの本」に急ぐ。



日本海からスタート 写真提供：重廣恒夫

温泉で冷え切った体を温め準備万端、蟹しゃぶとアルコールがさらに体をほぐしてくれた。ブルーのタグが付いた蟹は、地元津居山港で水揚げされた正真正銘のブランド蟹。鍋にくぐらせると花が咲いたようになる脚の身は絶品で最高。(えっまだ焼き蟹も出てくるやんか！おなか一杯やー！！) 部屋に戻っての二次会も大いに盛り上がり、時間の過ぎるのを忘れた。

**3月22日(土)晴**

今朝は昨日とは打って変って風もなく波も凪いで登山日和となる。寄せ書きし、民宿のご主人と記念写真。「蟹美味しかったです、ごちそうさん！」

ストレッチ後、蒲井分岐までは昨日の道を辿る。順調に足を延ばして先を急ぐ。テープも所々にあり、藪漕ぎすることもなくしっかり付いている袖道も気持ちが良い。P263を少し南下した辺りで東にルートを取り、しばらくすると再び南に大きく屈曲、河内分岐を経て今回初めての二等三角点「湊」に着く。少し開けた明るい場所は休憩にちょうど良い。

この先は傾斜もきつくなり足下もズルズル滑るがひたすら峠をめざし下りる。左下に久美浜湾が望め、カキ養殖筏を眺めながら下山するとポンと県道11号香美久美浜線に飛び出た。目的地三原峠である。

時間的には早いものの交通の便が悪く、今回は当初の予定通りここまでとした。

**【コースタイム】**

21日 田結民宿11:25—12:29 P159北西尾根コル—13:01 P159—13:39県境始点—14:32 P159—14:51蒲井分岐—15:54田結民宿

22日 蒲井分岐8:31—09:12 P236—09:51河内分岐—10:03湊—11:41三原峠—13:23久美浜駅

**【参加者】**

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代 新本政子 清瀬祐司  
久保和恵 野村珠生 松仲史朗 松村文子 宗実二郎  
村田かおり 竹中雅幸 (会友)青木昭 黒岩敦子 松村竹次郎 計15名



ミツバツツジと展望に魅せられて 写真提供：中島 隆

ですね」と、「おはようございます」の後に必ずこの声を掛けあっておられる。皆さんこの例会を心待ちにしておられるのがよくわかる。

事前に下見をして鎧ダムから登り浅見尾根を下る周囲の安全コースに変更した。アルプス登山口バス停からアスファルト道を進み迎不動前で体操して体をほぐす。天神川を渡り、新オランダ堰堤を越えて鎧ダムへの沢沿いを歩く。

鎧ダムで名前の由来や地層等を学習する。砂に埋もれてしまったダム湖の真ん中で昼食をとる。その後、堂山をめざしのんびりと樹林の中を歩き稜線に出る。展望がよく堂山をはじめ笹間ヶ岳、田上山に続く山々や北に湖東平野を見渡すことができ、満開のミツバツツジが迎えてくれている春爛漫の山歩きである。

でも、風化した花こう岩のザレ場や道は油断していたら滑りやすく慎重を要する。皆さん自分のペースで登って行かれる。おまけに岩場もあり少々スリルを楽しみながらロープに助けられて全員堂山の頂上に立ちホッと一息。ゆっくり景色を楽しんだ後、麓に張り出す尾根や谷筋を見ながら浅見尾根を下る。四号堰堤からは水のきれいな谷筋を下り、天神川を渡渉してアルプス登山口に戻る。

晴天に恵まれ、谷あり、岩場あり、ロープありの変化に富んだコースで皆さん満足しておられた様子であった。何より満開のツツジがよかったのかも。

**【コースタイム】**

アルプス登山口バス停10:04—10:12オランダ堰堤—10:33迎不動—11:22鎧ダム12:20—13:10堂山13:40—14:03四号堰堤—14:43オランダ堰堤—14:51アルプス登山口

**【参加者】**

久保和恵 新本政子 上田典子 魚津清和 浦上芳啓  
金井健二 戸島泰三郎 中島隆 平井一正 松波幹夫  
森沢義信 山内幸子 (会友)岐部明弘 黒岩敦子 小林

支部山行14-1 ゆるやか山行【里山探訪】  
湖南アルプス 鎧ダムから堂山へ  
山内幸子

**4月17日(木)晴**

先月のゆるやか山行は雨で流れ今月も雨の予報があり心配したが、ちょうど気圧の谷間で晴れた日になり催行できた。2か月ぶりに顔を合わせた皆さんは「久しぶり

三喜男 中田栄 横山規江 (会員外)秋月修次 田中ア  
キエ 計19名

**支部山行14-2 4000山グランプリ  
火燈山(803m)から刈安山(548m)**

4月19日(土)・20日(日)

雨の予想に反してお天気に恵まれ、少し藪はあったもののタムシバ、シャクナゲ、ツバキ、スマレ、イカリソウ、シュンランなど花が満開で、小鳥の声を聴きながら春の山が満喫できた2日間だった。刈安山の白山比咩神社で行われていた山開きの神事後、刈安そばの振る舞いがあった。 [重廣恒夫]

**【コースタイム】**

19日(晴) 芦原温泉駅9:47(タクシー)火燈山登山口発11:10—12:40火燈山—13:25小倉谷山(三等△)—13:55火燈山—15:10大内峠—16:25恵良岳(三等△545.5m)—16:50林道テント場

20日(曇後晴) テント場04:50—06:20鉄塔—07:33水坪山—07:55剣ヶ岳登山口—08:30剣ヶ岳(二等△)—09:25林道案内板—10:15風谷峠—11:05刈安山(二等△)

**【参加者】**

重廣恒夫 久保和恵 村田かおり 松仲史朗 山内幸子  
計5名

**支部山行14-3 県境縦走16  
三原峠～いざみ峠**

4月26日(土)・27日(日)

県境はおおむね踏み跡があり歩きやすかったが一部ネットや灌木の薄いヤブがあった。鹿が下草を食べているので足元には緑が見当たらない。芽吹きと新緑の中時折日本海を見ながら歩いた。神谷からは稜線と平行して林道ができていた。河梨峠、馬地峠、こさづ峠、三等三角点須田を越え、車道が越えるいざみ峠まで進めた。こさづ峠付近は森づくり事業で公園風に整備されている。支部長とはここで合流できた。 [山内幸子]

**【コースタイム】**

26日(晴) 三原峠発11:52—12:07稜線—13:35神谷(三等△)—14:05新林道合流—16:00P431手前コル—16:34P431テントサイト

27日(晴) P43105:56—07:20河梨峠07:37—07:49トンネル上—08:30P312—09:34馬路(三等△)—10:20馬地峠—12:04こさづ峠12:30—12:46白雲山—13:08市場分岐—13:48P390—15:22須田(三等△)—16:01P407—16:36いざみ峠

**【参加者】**

黒田記代 久保和恵 竹中雅幸 野村珠生 村田かおり  
松仲史朗 山内幸子 (会友)青木昭 (27日のみ)重廣恒夫  
26日8名 27日9名

**スケッチ同好会再開します**

スケッチ同好会が休止してから久しいですが、今年度より再開いたします。野村哲夫会員(No.13366)にサポート役を要請し、同好会の運営にご協力いただけることになりました。会員の皆様のご参加お待ちしております。

**【野村哲夫氏からのメッセージ】**

山に登る楽しさと同時にその時の印象を絵に残そうと思いませんか？山の楽しみが倍増しますよ！気ままに描けばいいんです！  
初心者大歓迎！山の絵を描いて楽しみませんか！

**★スケッチ同好会の概要**

- ・隔月開催予定
- ・絵画対象： 基本的に「山を描く」
- ・サポート： 野村哲夫会員

- ・幹事： 久保和恵(支部総務委員)
- ・例会運営： 参加者による持ち回り

**第1回スケッチ同好会例会のご案内**

日時 平成26年7月7日(月) 10:15～15:00

集合 JR新三田駅前 9:30

行先 有馬富士公園(歩行2.5km 約45分)

持ち物 水彩を主とする画材、カメラ、弁当、飲物、日除け帽子ほか日焼け対策グッズ、有れば折り畳み椅子など

申込締切 平成26年7月1日(火)

申込先 (7月担当)久保和恵

メールアドレス

uncletorys05-kazu@nifty.com

TEL 079-565-0530

「本山寺山森林づくりの会」作業報告

秦 康夫

2014年1月23日(木)9:30~15:30

来年度の作業予定区域の選定作業を行い、境界を黄色テープで標示取付けした。A保安林観察地区域、B間伐拡大林床整備区域、C広葉樹区域、は完了し、D間伐済観察地区域、E間伐区域は次回に持越す。

【参加者】

金井良碩 宮本廣 倉谷邦雄 杉本佳英 阪下幸一 中村賢三 石原順子 薦田佳一 斧田一陽 計9名

2014年2月16日(日)9:30~14:30

1) 2014年度作業予定地の区画選定

来年度のD間伐済観察地区域予定地の区画選定作業を行い、一部を残し黄色テープを取付けた。

【参加者】

須本淳史 福井誠 斧田一陽 計3名

2) 森林観察会(鹿被害の観察)

株式会社アドプランツコーポレーションの中村康則、増永滋生両講師を迎え、鹿による林内の被害状況の観察会を行った。併せて、モミ、ツガ、アカガシなどの林内の冷温帯樹林の観察会を実施した。なお、本山寺の百済寂仁住職のご協力により、本山寺境内での鹿被害状況の観察も行った。

【参加者】

宮本廣 倉谷邦雄 杉本佳英 阪下幸一 金井良碩 武田寿夫 久保和恵 薦田佳一 石原順子 増永滋生 中村康則 須本淳史 福井誠 斧田一陽 上田保男 小谷良治 坂本清隆 中山忠行 板原敏雄 計19名



森林観察会の出発前に 写真提供：宮本 廣

2014年3月18日(火)9:30~15:00

今回の主作業は、2014年度作業予定区域のうち、未確定のE間伐区域の選定だが、作業に入る前に①4m釣竿を使用しての樹高の目測測定法 ②「直径巻き尺」による胸高直径の測り方 ③立木の形状比の算出方法(樹高÷胸高直径→目標形状比70未満)の確認等を行った。

次いで、間伐予定区域の選定作業に入り、作業用具置き場予定地の近くに、1,000㎡(50m×20m)の次期間伐予定区画を確定した。ここも急傾斜面が多いが止むを得ない。引き続き区画内の選木作業に入り、間伐、除伐予定木に白テープを巻く作業はほぼ終了した。

【参加者】

金井良碩 斧田一陽 倉谷邦雄 宮本廣 秦康夫 薦田佳一 計6名

山の音楽(2)世界編

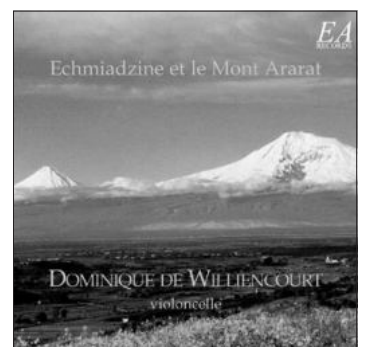
水谷 透

クラシック音楽がヨーロッパ中心に発展してきたこともあり、対象となる山もヨーロッパの山々が多い。その他の地域の山が取り上げられるのは20世紀になってからである。そんな中であって、聖書に纏わる山は早くから取り上げられている。

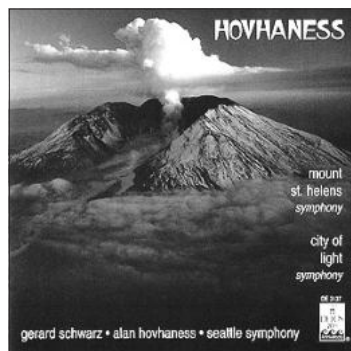
エルサレムの東に位置し、旧市街より数十メートル高いオリブ山は(818m)は、グレゴリオ聖歌にレスポンソリウム「オリブ山で」として歌われている。また、ウィリアム・バード(イギリス1543-1623)がモテット「シナイ山にいたもう主は」を書いている。シナイ山は正確

な場所は不明であるが、シナイ半島南部のジェベル・ムーサー(2285m)と比定されている。

ノアの箱舟が漂着したとされるアララト山(5137m)は、ミニク・ドゥ・ヴィリアンクール(フランス1959-)が「エチミアジンとアララト山」を書いている。エチミアジンはアララト山を望む地



に建つアルメニア正教の総本山のことである。また、アルメニア系の血を引くアラン・ホヴァネス（アメリカ1911-2000）も交響曲第14番「アララト」を書いている。ホヴァネスは67曲もの交響曲を書いており、山を対象にした作品も多く、交響曲第7番「ナンガ・パルヴァ」（ナンガ・パルバットのこと）は現在のところ音楽で描かれた最高峰である。アジアの山では他に、朱踐耳（しゅせんじ：中国1922-）に貴州省の山を描いた交響的組曲「貴州の山々でのスケッチ」がある。



北米大陸では、アルフレッド・リード（1921-2005）がカナダ建国100年の記念にサスカッチアン州芸術庁より委嘱を受け、「サスカッチアンの山」を書いている。アメリカの山では、ホヴァネス

スが交響曲第50番「セント・ヘレンズ山」、交響曲第60番「アパラチア山脈へ」、交響曲第66番「グレイシア・ピークへの讃歌」を書いている。セント・ヘレンズ(2550m)とグレイシア・ピーク(3213m)は共にカスケード山脈の山で、セント・ヘレンズは1980年に山体崩壊と爆発により標高が400m低くなった。他には、三善晃（日本1933-2013）に打楽器群のための「イスタシワトル＝白き女峰」がある。イスタシワトル(5286m)はメキシコ第3位(北米大陸第7位)の高峰である。

南米大陸の山を取り上げた曲はないが、アストル・ピアソラ（アルゼンチン1921-1992）のバンドネオン協奏曲が「アコンカゲア」との副題で呼ばれることがある。ただ、由来は不明である。

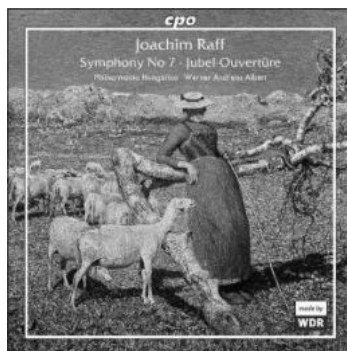
.....



♪曲を聴くために♪

ここに紹介した曲の多くは、演奏はもちろん録音でも聴く機会の少ない曲です。しかしながら大半はCDで発売されています。ただマイナーレーベルからの発売であったり、廃盤になっているものが多いのも事実です。そんな中でも比較的購入しやすいレーベルを紹介します。

CPO：ドイツを代表するマイナーレーベルで比較的手し易い。



ヨアヒム・ラフ交響曲第7番「アルプスにて」

NAXOS（ナクソス）：香港のレーベルであるが、今や世界を席卷するレーベルに成長。



ヴォイチェフ・キラール交響詩「コシチェツ山1909年」

ASV：イギリスのマイナーレーベルであるが、数年前に買収された。在庫分に限り入手可。



ミロ斯拉フ・スコリーク「カルパティア協奏曲」

これらのレーベルのCDは輸入盤を扱っているCD店や通販で入手できます。ただ日本国内に在庫がない場合、届くまで時間のかかることがあります。





## 自己紹介

野村哲夫(会員番号：13366)

私は高校時代友人の勧めで山岳部に入り、夏山やスキーに出掛けていましたが、大学時代は他のスポーツに転じ、その部活では優勝する程強かった事もあって時間的余裕が無く山とは少し遠ざかっていました。其の後、社会人になっても休日には山やスキーに出掛けていました。

30年位前シャープ創業家の早川ご夫妻やJAC会員金井健二さんと夏山・スキーにご一緒する機会があり、以降毎年、北アルプス・南アルプス・東北・北海道、屋久島迄も足を延ばしていました。それが更に海外へも関心が高まり、先ずニュージーランドへ出掛け、更には欧州へも。レンタカーを借りてスイスからオーストリーへ。5月の連休でも氷河スキーが楽しめる素晴らしさを感じたものです。この時のご一緒した関西支部・金井健二さんが帰国された後、「チロルスキーツアー」を支部企画として進められ、それに加えて頂き、その時の支部報に参加者として私の名前も載り、それがキッカケとなって入会しました。その後、この企画が15年も続けられ、その殆どに参加しました。

入会後も、支部企画には参加していなくて、早川家の

ご家族や親しくしていた方々とは毎年夏冬出掛けていましたが、早川良造さんが体調を崩され、遂に3年前に他界され、良造さんの山を想う心を偲んでよく行った白馬蓮華温泉へ毎年出掛けています。今迄毎シーズン山へご一緒した方が亡くなり山へ出掛ける事が殆ど無くなり、最近体力がかなり低下している事を感じ、支部報を見て、ここ半年位前より「ゆるやか山行」に参加する事にしました。

私として「山」と共に今一つ趣味と言えるのが「絵画」で、これは子供の頃から取組んでおり、高校時代は山岳部と共に絵画部にも所属、これも社会人の頃は多忙で中断していましたが余裕を作って再開、素晴らしい山の魅力を絵にしようと取組み、現在、歴史のある「チャーチル会」に所属し、「山の絵を主にした個展」を心齋橋で開催しており8年になります。「ゆるやか山行」に参加して、関西支部でも「スケッチの会」を再開したいので協力する様要請を受けました。私に些かでもお手伝い出来るのであれば協力しようと考えている今日此頃であります。

受贈一覧(2014.2.1～4.30受理分)

- \* ACKU-news 39 神戸大学山岳会・山岳部
- \* 登山月報 第540号 日本山岳協会
- \* 山岳大阪 No.200 大阪府山岳連盟
- \* 兵庫山岳 第560, 561号 兵庫県山岳連盟
- \* 日本山岳会支部報
  - 秋田山岳 No.92
  - 栃木支部報 第7号
  - 埼玉支部報 第11号
  - 千葉支部だより 第26号
  - [東京] たま通信 第15号
  - 富山支部会報 No.95
  - 福井支部報 No.27
  - 岐阜山岳 第75号
  - 東海支部報 No.137
  - [京都・滋賀] 支部だより No.110
  - JAC Hiroshima 第51号
  - JAC北九だより No.68
  - 東九州支部報 号外, 第64号
  - 宮崎支部報 第48号



2014年7月～9月 支部山行計画

※申込み先は後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

14-11 関西支部県境縦走18[日程変更]

日時：6月28日(土)・29日(日)  
申込み：6月17日迄 山内幸子

コース：水窪駅—中ノ尾根山—合地山—黒沢山—水窪駅

地図：2.5万分の1 「伊那和田」「池口岳」

14-12 4000山グランプリ

四国の山「塩塚峰1043m・中津山1447m・丸笹山1712m～赤帽子山」  
日時：7月12日(土)・13日(日)  
コース：徳島駅—塩塚峰—中津山—丸笹山—赤帽子山—徳島駅

備考：詳しくはメールで問い合わせてください  
80周年記念海外登山のトレーニング山行  
難易度の高い山 テント山行  
一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：7月31日迄 重廣恒夫

地図：2.5万分の1 「伊予新宮」「阿波川口」  
備考：四国支部との合同山行です  
申込み：6月30日迄 家段勝好

14-15 関西支部県境縦走20

日時：8月23日(土)・24日(日)  
コース：7月までの進捗状況によりコースが決まります HP等で確認してください

備考：詳しくは申込者に連絡します  
申込み：8月10日迄 黒田記代

14-13 関西支部県境縦走19

日時：7月26日(土)・27日(日)  
コース：6月までの進捗状況によりコースが決まります HP等で確認してください  
備考：詳しくは申込者に連絡します  
申込み：7月12日迄 黒田記代

14-16 沢例会

四国・吉野川最源流「名野川」  
日時：8月30日(土)・31日(日)  
コース：30日 名野川登山口—名野川遡行—手箱山—登山口  
31日 各自帰阪  
備考：前夜29日発 高速道路途中で仮眠 寺川の小屋(高知・鷲尾山岳会)を利用

14-14 4000山グランプリ

南アルプス深南部「中ノ尾根山2296mから合地山2149m・黒沢山2123m」  
日時：8月9日(土)～13日(水)

申込み：8月16日迄に 茂木完治

14-17 4000山グランプリ

四国の山「檜原山1041m・高縄山986m」

日 時：9月13日(土)・14日(日)

コース：徳島駅—松山市—檜原山—高縄山—徳島駅

地 図：2.5万分の1 「伊予北条」「鈍川」

備 考：四国支部との合同山行です

申込み：8月31日迄 家段勝好

14-18 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる15

裏六甲「逢山峡から紅葉谷」

日 時：9月18日(木)

コース：有馬口駅—逢山峡—茶園谷—小川谷—極楽茶屋跡—紅葉谷—有馬温泉

地 図：2.5万分の1 「有馬」「宝塚」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります

歩行距離 約10km 歩行時間 約5時間30分

申込み：9月10日迄(締切厳守) 久保和恵

14-19 関西支部県境縦走21

日 時：9月27日(土)・28日(日)

コース：8月までの進捗状況によりコースが決まります HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：9月13日迄 黒田記代

申込み先一覧

家段勝好 e-mail：k-kadan@gb4.so-net.ne.jp

久保和恵 e-mail：uncletorys05-kazu@nifty.com

FAX：079-565-0530

黒田記代 e-mail：kuroda@makino.kmu.ac.jp

重廣恒夫 e-mail：shigehiro-ts@asics.co.jp

茂木完治 e-mail：yib03510@nifty.com

TEL：080-3103-6770

山内幸子 e-mail：sacchuyama2f0710@n5.gyao.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

1stステップ

初級 『地図とコンパスを持って六甲山を歩く』

6月3日(火) 摩耶山 698.6m

7月8日(火) 古寺山 636m

8月7日(木) 地図とコンパスの見方・使い方(座学)

9月2日(火) 岩原山 573m

中級 『沢歩き』

6月19日(木) 船坂谷～大平山

7月24日(木) 赤子谷～岩原山

8月7日(木) 地図とコンパスの見方・使い方(座学)

9月25日(木) 西滝ヶ谷～六甲最高峰

上級 『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

6月12日(木) 百丈岩周辺

7月17日(木) 不動岩周辺

8月7日(木) 地図とコンパスの見方・使い方・沢登りの基礎知識(座学)

9月18日(木) 金剛山・妙見谷

2014年7月～9月 自然保護行事

1 東お多福山ススキ草原復元活動

・7月23日(水) 夏の植生調査と管理作業  
予備日24日(木)

※集合：阪急芦屋川駅 8時50分(土樋割峠 9時30分)

2 自然観察会

・8月25日(月)～26日(火)大台ヶ原  
先着順(10名)詳細は、参加希望者に別途連絡

3 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づくりの会活動)

(1)7月3日(木)44班は2 林床整備、枯死木除伐

(2)7月20日(日)44班は1 林床整備、枯死木除伐

(3)8月7日(木)44班は1 林床整備、枯死木除伐

(4)8月17日(日)44班ろ 林床整備、枯死木除伐、選木

(5)9月4日(木)45班ろ3 間伐、林床整備

(6)9月21日(日)45班ろ4 林床整備、つるきり

※集合：JR高槻駅北口アルプラザ前 8時50分

(参拝者駐車場 9時30分)

4 予告

・第18回森の勉強会 11月8日(土)～9日(日)

愛知 猿投の森

・自然保護全国集会 11月22日(土)～24日(月・祝)

広島

問い合わせ・申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556/090-4037-4542

※締め切り：自然観察会を除き、開催日の一週間前まで

# ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 (税抜)  
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

◎山書版元主人が語る「登山は文化です」  
**山の本をつくる**  
中西健夫 著  
2800円  
再版!!

「山が好き、本が好き」で50年、京都北山からヒマラヤ、アルプスまで、百冊以上の山書を出版した著者が、山の本へのこだわりと山を書く人たちとの交流を語る。

◎極限の環境で生きる人々の記録 **新刊**  
**遊牧・移牧・定牧**  
稲村哲也(放送大学教授) 著  
3500円

アンデスやヒマラヤ、モンゴルの過酷な環境で家畜とともに暮らす人々。その知られざる実態と変容を克明に追った、35年にわたるフィールドワークの記録。

8刷出来!

# ロープレスキュー技術

堤 信夫 著

2000円

登山家、救助・防災関係者、アウトドア関係者などに必須の技術書。現場で使えるロープテクニックの手順や方法を、図解イラストでわかりやすく解説。



奈良・釈迦ヶ岳

一帯二肉點研究会編著 (正)2000円・続1800円  
北海道から沖縄まで、計千点余の全一等三角点(正編は五〇〇m以上、続編は五〇〇m未満)について、標高・選点・地形図名・経緯度・所在地等と、会員が実際に辿った三角点までの登山道を案内。高山の山頂以外にも、無名峰や平地、ヤブの中から民家の庭先まで。

# 統一等三角点全国ガイド

再版!!

登山案内 ◎会員による実地調査 ついに完結!!

フランスとイタリアの両側から、モンブランの絶景を眺めハイキング

アフリカ北西部の大西洋に浮かぶカナリア諸島・Mt.テイデに登頂

## シャモニ滞在ハイキングと 迫力のモンブラン南壁 8日間

## スペイン領最高峰Mt.テイデ登頂と カナリア諸島ハイキング 10日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
残 3 7/12(土)～7/19(土)	¥448,000
残 3 7/19(土)～7/26(土)	¥448,000
募集中 8/23(土)～8/30(土)	¥466,000
募集中 9/13(土)～9/20(土)	¥482,000

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
募集中 9/25(木)～10/4(土)	¥488,000

フランスのシャモニとイタリアのクールマイユールにそれぞれ3連泊。モンブラン山群の迫力の展望を余すところなく満喫していただけます。



▲尖峰ドリュが眼前に迫る(4日目)

独自の自然や文化が残る大西洋に浮かぶスペイン領カナリア諸島へ。テネリフェ島では、スペイン領最高峰のMt.テイデ(3,718m)で1泊2日の登山を楽しみます。また、数々のハイキングや世界遺産の訪問など、盛りだくさんの山旅です。



▲テイデ山の山頂部を仰ぎ見る



▲ビーチリゾートにも滞在

—◇お知らせ◇—

### 「ロングトレイル倶楽部」のご案内

2013年10月より「ロングトレイル倶楽部」が発足いたしました。世界を代表する「ロングトレイル」の名にふさわしい、各コースをご紹介します。専用カタログをご請求ください。

### ◇—アルパイン・メイト・ポイントのご案内—◇

- 当社海外ツアーにご参加いただくと、旅行代金の1%にあたるポイントが帰国翌日に自動加算されます。
- 貯まったポイントは次回の割引やアウトドアグッズへ交換可能。
- 入会金や年会費、面倒な手続きなどは一切不要です。

「アルパイン・メイト・ポイント」の詳細はお問合せください。



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員

◎ボンド保証会員

**アルパインツアーサービス株式会社**

大阪 06-6444-3033  
〒550-0003  
大阪市西区京町堀1-4-3 (TOF肥後橋ビル2階)

### 〈編集後記〉

☆今年のゴールデン・ウィークは比較的天候が良かったにもかかわらず、全国的に遭難事故が多かったことが気になります。  
☆インドネシアのリンジャニ山に登ってきました。およそ20年ぶりの海外登山、ほぼ10年ぶりの3000m超の山に、周りの助けも得て、なんとか頂きを踏むことが出来ました。しかし、脚力の衰えに「昔取った杵柄」は何の役にも立たず、「継続は力なり」を痛感しました。  
☆新しい体裁になった支部報、いよいよ2年目に突入です。今年度は阿部前支部長の追悼号発行も予定しております。  
(M)

発行日 2014(平成26)年6月10日  
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22  
梅田東ビル3階 304号室  
公益社団法人日本山岳会関西支部  
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp  
郵便振替口座 00930-6-55950  
発行者 重廣恒夫  
編集 加藤芳樹 野口恒雄 水谷 透  
制作 株式会社 双陽社  
大阪市北区堂島2-2-28